

# 長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会意見交換議事録

令和3年7月28日（水）10:00～12:00

北信合同庁舎 4階 講堂

（佐々木部会長）

それでは、意見交換に入って参りたいと思います。

北信地域の昨年度の取り組み実績、今年度の実行計画、達成指標ごとに整理した成果について、今後の方向性などを踏まえまして、農業・農村振興に向けた御意見、御提をお願いしたいと思ます。

最初に先ほど説明資料の説明をさせていただきましたが、説明の中でもう少し具体的に聞きたいとか、そういうものがありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ご説明いただいた内容については、御理解をいただいたという形でお願いします。

それでは、続きまして取り組み成果を踏まえまして、御意見、御提言をお願いしたいと思います。

皆さんの方から、いかがでしょうか。

去年もそうですが、なかなか意見が出てきませんので、委員の皆様お一人ずつ、一言ずつ提言ということで方向性という点を踏まえてお願いします。

それでは、福澤委員からお願いします。

（福澤委員）

飯山市で水稻を中心に経営しておりますけれども、水稻の前は野菜・花きを栽培しておりました。

地区を限定しますが、常盤地区の花き（栽培）では、40代後半から50代の後継者が頑張っていますが、将来的、5年後、10年後先は、飯山の花きの産地として機能していけるかどうか、というところを心配しているところです。

常盤地区では、最大3ha、2ha・1haの栽培規模の生産者が多いわけですが、後継者が不明な生産者も多く、このまま後継者がなく経営をやめてしまうと、荒廃地等が増えることになると心配しております。その点を、支援してもらいたいと思います。

（佐々木部会長）

ありがとうございます。

資料15ページの担い手の育成というところに関係してくると思いますが、県からいかがでしょうか。

（技術経営普及課 中塚課長）

御意見ありがとうございます。課長の中塚です。

担い手につきましては、市町村と連携して取り組んで参りたいと思いますが、今、福澤委員さんからいただいた課題につきましては、対象の方が明確にいらっしゃるようですので、まずは、その対象の方から、後継者をどのように考えていらっしゃるのかお聞きした上で、どのような支援ができるのか検討したいと思います。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

続きまして、市村委員さんお願いします。

(市村委員)

はい、農業士、中野市の市村です。よろしく申し上げます。

果樹の関係で、検討会等いろいろ意見を聞く機会があるわけですが、コロナ禍ということで会う機会が少なく、あまり意見を聞くことができていないのですが、去年も今年もですが、畑かん施設の特に6月、7月の一番水の必要な時期に「取水ができない」「薬剤散布の水が確保できない」「かん水ができない」、特に上流では「川が濁って取水ができない」「ポンプが故障しかん水ができない」、特にぶどうで品質を確保するために水が必要な時期に、こういった状況が数年続いている状況です。

改修・修繕もしていただいています、間に合わない部分もあって、若い生産者が数人集まって水道設備を使用して、かん水や薬剤散布の水を確保しようという動きがあります。

しかしながら、資金面で難しいところもあり、市や県に相談しても小さなグループでは、十分なサポートを受けられないという話を聞きました。

昨年も話をしましたが、決まりきったことをするとこういったサポートが受けられますよという一辺倒の内容ではなく、生産者の要望に沿ったサポートが受けられるような体制づくりをお願いしたいと思います。

もう一点、私には小学生の子供がいますが、去年は農産物・畜産物などPRということで何度か食べさせていただく機会がありました。

食べた日は「信州サーモン食べたよ」「みゆきポーク食べたよ」と、とても喜んで帰ってきます。

子供たちに「これが地元のものなんだよ」「長野県にはこんな特産があるんだよ」ということで、もっと回数多く、子供のうちから口にする機会を多くしてもらいたいです。

子供の時から口にしてしていると、大人になっても食べたくなくなることがあるんじゃないですかね。

うちは、果樹農家ですので、うちの子供たちにナガノパープルをあげると本当によく食べますが、ナガノパープルを知らない子供にあげると、本当に皮ごと食べて大丈夫なのかと、戸惑いを見せることがあります。

認知を高める機会が少ないのかなあとと思いますし、子供たちにもっと長野県産のものを食べてもらいたいと思いますので、こういった活動をもっとしていただきたいと思います。

まとまりませんが、よろしく申し上げます。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

事務局からお願いします。

(本田農地整備課長)

農地整備課長の本田と申します。よろしくお願ひします。

最初にありました、農業用水の新規確保についてですが、もともとの水利権がある中で新規確保が難しいということで、水道水を利用したいということでよろしいでしょうか。

水道水を利用する場合、直に撒くといったこともあるんでしょうけれども、貯水槽というものを新たに造って、水道水を貯めて使用したいと考えているのかなと思われれますが、この場合、水道水を直接配管するといった補助事業はありません。

次に貯水槽を個別にや数名の団体整備するにも具体的な補助事業はありません。

今、挙げられた課題については、小さな規模ではありますが、新規の水の確保というのは、大変重要な課題と認識していますので、検討課題としていきたいと思ひます。

農業用水に関しましては以上です。

(農業農村支援センター 池田農業振興係長)

学校給食の関係ですけれども、昨年はコロナ禍の関係で小中学生に提供できる機会が割と多かったですけど、今年はまだ提供できる機会がなく申し訳ありません。

私どもの事業の中で、地域食材を直接提供するといった事業もありますが限界がります。

学校給食の場合は、食材を扱っていただいている栄養士さん、調理師さん、こういった方たちに地元の食材を知っていただいて、地域の食材を使った給食の時には「こういった食材を使っていますよ」というプリントを配っていただいていると聞いておりますので、栄養士さん、調理師さんに先ずは地域食材を知っていただくということしております。これまでも研修会といいますか、お話をさせていただき取り組みをしてきておりますが、継続していきたいと考えております。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

よろしいですかね。

かん水につきましては、対応が可能であれば是非お願ひしたいと思ひます。

続きまして、佐藤委員さんお願ひします。

(佐藤委員)

よろしくお願ひします。うちは、野菜を主に栽培していますが、個人的なことではありますが、夏場の熱い時期にかん水したいということがありまして、JAに尽力していただき、県の助成をもらって突き井戸を掘りました。

いま、果樹ではスプリンクラーなど考えてくださるということでしたが、野菜についても突き井戸など良い助成がありあましたらお願ひしたいと思ひます。

また、私たちは、仲間と食育についていろいろ場面で携わってきていますが、高校生と笹ずしの講習会を開催しました。良い企画をいただき、手ごたえを感じたところですので、また何か良い企画がありましたら協力させていただきたいと思ひます。

よろしくお願ひします。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

(本田農地整備課長)

畑地への用水支援ということですが、畑地につきましても水は貴重な水資源ということで、重要な課題であると認識していることです。

まず、井戸の新規掘削ということによろしいでしょうか。

井戸についても、河川など地表水の水利権というわけではありませんが、地域への影響というものも御座います。勝手に掘って、勝手に取水するということではできませんので、諸々の条件を検討したうえで井戸が掘れるかどうかということがありますが、大きな受益をもったなかで、井戸の調査をしながら井戸が掘れるということであれば、補助事業を入れることは可能な場合があります。

補助事業を使う場合は採択要件というものがありますので、ある程度大きな受益の中で市町村なりと検討していただければと思います、

畑のほ場整備も、皆さんからの要望に基づいております。補助事業にも規模感がありますので、規模が小さければまずは市町村さんに相談していただければと思います。

以上です。

(農業農村支援センター 松木所長)

支援センターの松木でございます。

食育につきましては、日ごろからご協力をいただきまして、ありがとうございます。

食育につきましてもいろいろ頼りにしているところでございますので、ぜひとも連携する中で、今後ともご協力いただければと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

それでは続きまして、荻原委員さんお願いします。

(荻原委員)

昨年度の実績で、コロナ禍でなかなか思うように勧められないという説明がありましたが、私どももこの一言に尽きると思います。

「(キャッチフレーズに) つなぎ育む」とありますけど、みんなが寄り合って研究しあったり、意見交換したりと、こういうところが今一番苦しい状況で、ネットで済ませたりという事で、これも仕方がない事ですけども、コロナ禍も1年半、2年続くとこれからどうなるのかなと思うところです。

寄り合って意見交換というところが、離れてしまったときにどのように進めていったらいいのか、まとめていったらいいのかというところが、悩みであります。

それから、アスパラガスの話が毎年できておりまして、数字的に言いますと、これは悪い数字でありますけれど、一昨年に対して去年が2分の1、今年が一昨年に対して4分の1という状況で、今年はまだ全部の数字がまとまっていませんが、7月からの長雨、梅雨が明けてからのカンカン照

りで田んぼも枯れてしまいますという状況で、アスパラも日照りで3重苦という状況で数字的にもきれいで出ているなあという状況です。

ただ、良い部分もありまして、そういった部分をどう継承していったらよいかという事を、現場サイドでは話をしているところですが、人の寄り合いという事でいろいろな判断を含めてしていかなければならない時期に来ているのかなと思います。

あと、佐藤委員や市村委員から話がありました、子ども達の関係ですけれども、シャクヤクについては北信地域、全国1位だとか、特産化だとかありましたね。確かにそうやってきたと思いますけれども、今年は凍霜害でそうとう苦しんできたわけですけれども、金額的には、値段的には良かったかなと思います。5月28、29、30日だったかな、栄村から飯山市秋津地区の小中学校の皆さんに、私どもJAの女性部の皆さんがフラワーアレンジメントにしてお届けさせていただきました。何がいいかなと思ったんですが、地域の子供たちが花とか触れ合うことが少ないものですから、こんなきれいな花、立派な花が自分たちの管内にあるんだという事、食品を含めてですけれども自信をもっていくことが大事だと思っております。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

では、武田委員さん。

(武田委員)

武田でございます。こんにちは。

流通の関係という事で委嘱をいただきました。少し流通のことでお話しさせていただきたいと思っております。

先ず、令和2年度の取り組みについて教えていただきました。先ほど来、コロナ禍の影響の中で、ほぼ計画に近い数字を達成されているという事で、ありがたく、感謝申し上げます。

私たち、流通会社の昨年度コロナ禍の数字等々を見てもみますと、青果市場は昨年度の数字はほとんど戻しました。

4年ぶりの増加という事で市場80社は、ほとんどプラスという結果になりました。これはどういう事かなということで、ひも解いてみますと、市場流通というものから、強気だった10年前から市場外流通という売り上げが増えていったと。

こういった市場外流通の中で、生産者組織のかたが、直に業務関係、外食等に納めていった。そこに人流、人の流れが止まることによって、量販店、まあいろんなファミレスだとか、ホテル業務だとか旅行関係、足が止まったという形の中で、スーパーの中の立食、内食が増えてきたという形の中で、スーパーさんが中心である青果市場の方が、量的に動いたということです。

昨年、果実等々を見てもみますと、単価的にもそこそこの単価ですけども、市場流通の方がよかったという事で、市場関係は数字がよかったと。

ただ、市場関係もそれだけではやっていけないところで、市場関係は今、地方、中央そろって、かなり統合しております。青果市場の一つとなりました岐阜、東京もこの間、東京青果と神田青果と一緒にあった、ああいう形の中で市場もどンドンどンドン大型化しております。

そういう形によって、今後の食生活を守っていかうじゃないか、私たちの流通を守っていかうじゃないか、という感じでお願ひします。

私、弊社ごとですが、弊社も来年の4月に県内の連合青果、R&Cの傘下でなんですけども、1つの会社になります。

地方卸売市場、日本一番、資産1000億円の会社が、長野県内の1つの会社となります。

私たちは、その中で何をしようかということで、市場としては長野県の農産物を、私たちのマネジメントで、県外の量販店等々に売っていきこうと。あらゆる農産物を、ということ私ども主力には考えていく方向ではございます。

その中で、皆さんがこのようにいろいろな農産物を支援していただいて、本当に感謝して、助かっております。

私たちも、もし、お手伝いできることがあればどんどんしていきたいなという気持ちですので、また、よろしくをお願いします。

その一環としまして、ちょっと、お話したいのですけども、長野県の農産物を発信する場として、千葉県市川市でマルシェを開催しております。

千葉の市川にもうちの子会社がありまして、千葉の市川市と船橋市、船橋市に本店株式会社を市川市場を、センター化してるんですけど、そのセンターさんの中で月に2回マルシェをやらせていただいています。

私も一度、プレオープン前に行った時なんですけども、第3者と話すことはとても楽しい。

そのとき1人、2人の生産者の方をお連れしたのですけども、すごく楽しそうに「俺のりんごはこうなんだよ」「俺のぶどうはどうだ」など、という話を生産者が、すごくうれしそうに話をしていました。

消費者も「ああ、そうなのー」とかいう話の中で、ニコニコして農産物、食べ物に関して話し込む姿を見たときに、これも一つの流通かなと。そんなことをつかんでいただければありがたいです。

やっぱりなにかというと、自分の作っているものに対して、生きがい、こういうものを作ったよ、作れたよという生きがいと、あと儲かること。継続するためには、儲かることが大事で、それをどういう風にマネジメントを組むかということが大事だと思っています。

今、流通の中で、この間宅配業者の、生協さんとか割といるんですけども、去年も良かったけれども今年も良かったと。

ある生協さんでは、今年、新規会員はやめていると。というのは、宅配しききいけない。そういう業者さんもいらっしやいまして、新規の会員さんは居ないよ、なるほどねって話をさせてもらったという事がやっぱり印象的で、じゃあ今年、コロナ禍で量販店いいの。実は今年度悪いですよ。単価安。数量は出て単価安。ここのところずっと青果市場は数字は厳しいです。これが現状です。

これが何かなあと考えたときに、やっぱり、景気が悪くなってきたと一言で言うてはいけないうすけれども、個人個人の生産者の財布の紐が固くなって、楽しみ方が違ってきたのかなということを感じています。

僕の友達で、インターネット関係をやっていて、新しいサイトを立ち上げたという事で、何かあって、リモート飲み会というのを流行りでやっていますよね、リモート飲み会のための新しい仕事をしているだと。どんな仕事？って聞いたら、リモート飲み会で、同じものをつまみとしようじゃないかと。同じ飲みものを飲もうじゃないかと。

仲間て今日は何処どこのお刺身と何処どこ野菜だとかそういう事をやって、みんなで同じものを食べて、宴会というのは同じものを食べながら、これおいしいねとか、ビールがうまいねとか話

をするんだけど、リモートの時は各々違うものだから、そういうビジネスも今やってるんだ、どう？みたいな、いろんな発想で青果物をやるビジネスがあるんだなど、感じております。

あとやっぱりこれから冷凍野菜、冷凍果実、カット野菜、カット果実というものが、私たちの周りでもどんどんユーザーが増えてきまして、冷凍野菜をやりたいんだけどなんかこだわった野菜ないか？とか、冷凍果実やりたいんだけど長野県で桃の柔らかいものない？とか、そういうような市場性も今、非常に反映されてきて、ちょっと生果だけの流通から違う形へ変わってきているかなとも感じています。

そんな中で、私としては、県の皆さんが今、このように農業振興に対してやっていただいていることを今後継続していただきまして、地域の活性化をよろしくお祈いしますということと、今苦しい観光等、ホテル等々、苦しんでいる方々がいらっしゃいます。

弊社も地元の市場としまして、皆様に本当にあの共に苦しい状況ですので、なんとかこのコロナが回復して、共に普通の水準に戻れるような、生活をしていきたいなというところで、意見とさせていただきます。

以上です。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。何か事務局の方で、よろしいですか。

はい、では続きまして、小林委員さんお願いします。

(小林英哉委員)

中野市農業振興課長の小林と申します。よろしく願いたします。

日頃より県の皆さんにおかれましては、中野市の色々な事業に御協力いただきまして、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

また、それぞれの委員さんの方からも、ご要望があったと思いますが、中野市としましてやれることはやっていきたいと思っておりますので、補助事業を活用しながら、県にもご協力をいただきながら、進めて参りたいと考えておりますので、よろしく願いたします。

私の方から、意見交換といいますか、ご確認させていただきたい点を申し上げたいと思います。

お示しいただいた資料の中で、先ず人・農地プランの関係で、北信地域振興局さんの方でどのように考えておられるのか、具体的に令和2年度の取り組みの中では記載がなかったものでそこを確認させていただきたい点。

あと、もう1点ですが、最後の26ページの関係でございますが、達成指標として「新たに観光資源として環境整備された疎水等の個所数」として掲げられている中で、「農業資産カードを作成して、スタンプラリーを開催した」とある中で、結びつきが、私の中で関係性がちょっと良く理解できないので、もう一度ご説明していただければと。指標との内容が一致しているのかという点を確認させていただきたいと思います。

あと、ここで申しあげていいのかわかりませんが、若干誤字、間違いがございますので、またご確認していただければと思います。

私からは以上でございます。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。

では、人・農地プランの関係、考え方、お願いします。

(農業農村支援センター池田農業振興係長)

ありがとうございます。

農業振興係の池田です。

人・農地プランにつきましては、国の計画では基本的に令和2年度末までに実質化することとなっております。この実質化というのは、農地を5年後、10年後を見据えた中で、農地の出し手や受け手となる中核的経営体をリスト化し、どのように利用していくか、守っていくかという計画を地域の合意によりまとめられたものをいいます。

コロナ禍の中で話し合いができない地域もございまして、1年間延長になっているプランもございますので、現在、どの様な状況、段階まで取り組みが進んでいるか等状況を確認しているところございます。

また、実質化と判断されたプランについても、今後の状況に合わせ見直しも必要となりますし、農地の集約等が進めばそれに伴う新たな課題もでてきます。

取り組みが進まない課題、実質化が実現していくに際しての課題については、市町村、それから関係機関が連携して進めていかなければなりませんので、課題等を整理させていただいて、譲許に合わせた支援をしたいと思っております。

現在、それぞれ、実質化に向けて話し合いを進めていただいている状況ですが、一部では遊休農地等を含めてしまうとなかなか流動化が進まない、受け手がないということで、対象とする農地をもう一度見直している地区もございます。

進捗状況は、それぞれでございますけれど、今後の地域農業の振興、維持には不可欠なものですので、行政としましてはしっかり支援していきたいと考えています。

答えになっているか分かりませんが、行政の対応という事でお願いします。

(本田農地整備課長)

新たに観光資源として環境整備された疎水等の箇所数というところでご質問かと思いますが、この1箇所という表示が大変わかりづらかったと思うのですが、スタンプラリーの開催回数です。

あとR3年度の2箇所については先ほどちょっと説明の中にもあったのですが、農業資産の看板設置ということを含めて、1箇所とカウントして2箇所と。ちょっとわかりにくい表になってございますが、申し訳ございません。

またこれはですね、スタンプラリーが農村の活性化にどう結び付くのかというご質問もあったかと思うのですが、資料のp26ページの1、繰り返して恐縮ですけれども、従来の観光というものが、観光コース等という事で決まっているものだけではなく、観光会社の方が申ししていたことですが、今インバウンド、外国の方も含めて何が受けるかわからないという状況もございます。

農業資産として、ここに例として「ため池、棚田、疎水」とございます。例えば、二番目に書いてあります「円筒分水工」、知っている人にとっては、通常の分水施設ですけれども、知らない人が見れば、このように丸い形で均等に分水できる施設というのが、非常に珍しいという事があって、隠れた施設というか土木遺産と言うことができまして、観光としてもPRに使える。



こういったものを道の駅または農産物直売所などで配布することで、先ず魅力を知ってもらって来てもらう、そして農産物購入に結び付けて農村活性化につなげていくという流れで行っているものです。なかなか直に農家の皆さんに結び付く内容ではないかもしれないですけども、魅力を知って来てもらう人を増やす一つ的手段としてスタンプラリーを開催しているところでございます。以上です。

(佐々木部会長)

はい、ありがとうございます。

小林委員よろしいですか。はい。ありがとうございます。

それでは続きまして、丸山委員さんお願いします。

(丸山真央委員)

はい。飯山市農林課長の丸山です。よろしく申し上げます。この4月から、この任に就いておりました、まだ4ヶ月ほどですので、ちょっと私の個人的な悩みもこめてご相談させていただくいい機会かと思っておりますので、発言させていただければと思います。

これまでの農政、というか行政ですけども、市民なり全員の平均点をあげるというのが一つの考え方だったかと思っておりますけれども、これからはそう言った施策プラスですね、農家の皆さん、様々な、多種多様な経営をされていますので、そういった方の選択肢を増やせる役割を行政として担っていかなければいけないと感じております。

先ほど来、市村委員、佐藤委員からもご発言ありましたけれども、小さな団体へのサポート、あるいは農家の皆さんから提案していただいたものに対するサポートというご発言ありましたけれども、まさにそういうものが市町村、行政には大事なのかなと思っております。

具体的に何をすればいいのかというのはまだ私の中で答えが出ておりませんが、やはり県の皆さんからも教えていただきながら、何か施策を考えられればというふうに思っております。若干、飯山市のことを申し上げますと、農家さんの所得向上ということを目的に、今、道の駅の直売所を拡張する計画を進めております。来年の秋にはオープンということで国の交付金を使いながら、そんな拡張をしながら、農家の皆さんの所得が上げればというふうに考えております。

それから土地改良関係ですけども、農地整備課の皆さんには、日頃、飯山市で大きな事業整備に取り組んでいただきまして、受益者の皆さんは喜んでおりますし、本当に感謝申し上げるところです。

ただ、そこまであがらない、何と言えいいですかね、ほ場整備から40年、50年経っております、やはり緊急性の高いものに関しては、それぞれ計画的に行っているのですが、例えば、農業用の用水路に関しては受益者の皆さんのご理解があるのですが、排水路の改修に関しては、やはり、今もう土地を持っているだけの所有者、要は、耕作はしないけれども土地を持っている所有者の皆さんには、どうしても排水路の改修に関する地元負担をお願いするというのはなかなか理解を求められない点もあります。

そこで一点、今日この場ですぐご回答ということではないですけども、いい機会ですので、25ページにですね、多面的事業のものがございます。

飯山市でも多面的事業に取り組んでいまして、長寿命化のお金を使いながら排水路を計画的に改修はしているのですが、それでもやはり地元だけでは追いつかないところがございます。

そこで、今年一年かけてお願いしていこうかなとは思っていたのですが、25 ページの一番最後ですね、事務の手続きの簡素化や事務負担の軽減について、引き続き国に対して要請していくという部分がございます。

で、何をお願いしたいかと言いますと、多面的事業というのはほかの事業の地元負担金に充てられないというのが現状でございます。

中山間の直接支払いの国の事業が、そういった他の事業の地元負担金として国の事業を充てられるのですが、多面的のほうは現状では充てられないというふうなことになっていきますので、地域振興局の皆さんの御協力をいただきながら、なんとかそういった地元負担金に国の事業を充てられるように、お願いできないかなというふうに、考えております。

あと、今日の資料にはなかったのですが、長野県さんで「治水 ONE\_NAGANO 宣言」というのが宣言されています。

飯山市も、おととしの台風 19 号で被災しておりますし、この宣言の考えはその通りだと思います。飯山市でも奨めていこうと考えております。

ただ、その中で田んぼダムですとかため池ダムに関しては、今の状況ではちょっと農家の皆さんに協力はいただきたいのですが、具体的にどんな協力をお願いすればいいのかと、(お願い)できない状況で、非常に悩んでおります。

また一緒に、どんな形で、どんな協力を求められるのか、またその協力を求めるにあたって、行政でも何らかの支援が必要なのか、その辺も一緒に時間をかけて考えていければと思いますので、よろしくお祈りします。

せっかくの機会ですので何も事前に申し上げずに発言させていただきました。よろしくお祈りします。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。事務局の方で。

(本田農地整備課長)

私の方から、1 点目に、多面的機能のお金を、補助事業の負担金にあてられないかというお話でしたかね。国の事業ということで、国の制度設計、全国の地域の皆様の声を聞きながら生み出された事業で、出来るだけ農家負担を減らしたいというのが一番の趣旨です。

多面的の中でもだいぶ農家の皆さんの作業に対する、負担に対する支援というものがこの事業でなされているかなあと想像しているところです。

更に負担金についても、今の多面的の制度の中では、直接充てられるように国に要請してほしいという事でよろしいでしょうか？

制度設計の中身を考えますと難しい面もあるかもしれませんが、引き続き事務負担軽減と同様、国へ要請して参りたいと思います。

2 点目のため池の低水位管理についてですが、ため池の低水位管理については、今月、市町村の皆さんの方で、実施可能か否かという調査をさせていただき、回答を得ておりますので、低水位管理については、ご理解いただいていると思いますが、ため池の低水位管理というのは、一番は大雨によってため池が決壊して下流域の人家や公的施設の被害を防止するために、事前に減らしてため池に集まってくる雨水を一時貯留して被害を軽減させるとか、決壊を防ごうという事でござい

ます。

それについても、季節的には、灌がい期、今一番水が欲しいという中で、ため池の水を減らせないという状況もございますので、それぞれ地域において、用水に余裕があるところは減らせますし、余裕のないところは減らせないと、地域で事情が違ってくると思います。

要因は、昔、造成したため池の容量と現在の受益面積というのが、基本的に減っている方向ですので、余っているところもあれば、足りないところもある、こういったところで事情から違ってくると思います。

一番お願いしたいことは、非灌がい期、これから8月から9月になって満水になって水を使わなくなってくれば、ため池の水の必要量も減ってくると、生活用水に使っているところもあります。基本的には一定量の水は足りない状況になってきますので、そういう時はこれから台風シーズンになってきますので、ため池の水をできるだけ減らして備えていただくという事をお願いしているわけですが、各管理者の皆さんの判断で、灌がい期にできるところはやっていただく、できないところはやらなくて結構なんです。できることをやっていただきたいと思います。

田んぼダムについては、先日飯山市を県の担当者が見ていく中で、耕作放棄地含めて一体的にやるには、ある程度大区画に再整備しながら、また排水機能もある程度統一感を持つようにし、そうした理解を得た中でなければ始められないのではないかなという検討課題が出ております。

田んぼダムについても万が一決壊した場合の補償制度も含めて、ある程度県の中でも方向が固まった中で指示を出さなければできないのかなと個人的には思っているところです。

ですので、ため池に関しては、地域の施設を守る、地域のエリアを守るという中で、運用していただければありがたいと思っております。

よろしくお願い致します。

(佐々木部会長)

ありがとうございます。皆さん、よろしいですか。はい。

それぞれ の皆さんからもご意見をいただきましたけれども、それぞれの意見をお聞きする中で、もう少し何か聞きたいという事があればいかがですか。

よろしいですか。

では、ちょっとすみません。私から一つ。

先日、組合員の方と話をしたときに、農業労働力不足の話が出まして、何とかしなければいけないと。

実は、ここで最低賃金が28円上がるという事で、国がそう決めて県の段階でいくらになるかはこれからですが、今までの例でいきますと、ほぼ国に準じて28円上がってくるという事になってくると思います。

農産物は、他の商品と違って自分で値段を付けて、この金額では売れませんという事ではなく、市場へ出荷して需給バランスの中で単価が決まってくるという事の中で、(労賃は)個人の大きな経費となってきます。28円上がるという事は、それだけ大きな経費負担となってくるということです。これに対して、何かできないかという事です。

農政部で賃金を上げるなという事は出来ないわけで、人が来なくなってしまうわけですから難しいわけですがけれども、別の形で還元できることがないかと。

この場でどうこうという事はありませんので、次期計画の中で経費というか販売単価が上がらな

い中で、収入とといいますか、経費をどうやって抑えていくかというところを、良い知恵をお願いしたいと思います。

それと、もう一つ、荻原委員さんからアスパラの話がありましたが、JA中野市もですね年々金額が落ちてきている状況です。

ただ、新しい苗を改植などして頑張っていこうと思っていられる方もいますが、疫病など年々減る中で気持ちが萎えてきてしまうという状態となっているという事で、今回柾板栽培など色々出てきていましたけれど、早く結果を出していただいて、植えても3年もすれば枯れていってしまうということということで、結果的には収入がなくなってしまうという事が一番の課題でありますので、早く対応して、結果を出して、集中的にアスパラを振興するのであれば集中的に何らかの助成を入れていきながら進めていかないと、アスパラの再構築というのは難しいと思っております。

ただ、後継者もそれなりにおられますけれども、地域的には果物を中心に栽培も増えていますが、北信地域にも果物の栽培が難しい地域というところもありまして、野菜をものすごく頑張って、野菜・花きを頑張って栽培していられるので、これから50歳、60歳、定年帰農のこういった人たちも含めて、野菜等を導入して、場合によっては果物が栽培できるようであれば数年後に果物を植える準備をして数年後に果物で収入をとっていくということで、70、80代までしっかり収入が取れる経営ができますので、こういったところでも野菜は重要な作物と考えておりますので、今回アスパラでありますけれども、どちらかというところ果樹偏重というところもありますので、野菜・花きの振興方策を是非進めていただきたいと思います。

要望という事でよろしく願いいたします

(佐々木部会長)

よろしいでしょうかね。

よろしければ、時間の関係もございますので、本日の議事についてはこれで終了とさせていただきます。

皆様方には、本当に熱心にご審議いただきましてありがとうございます。

また、事務局には、委員の皆さんの御意見、御提言を、北信地域の発展方向に十分反映していただくことをお願いしまして、進行を事務局へお返ししたいと思います。

ありがとうございました。